

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和 8 年10月15日

枚方市立渚西中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

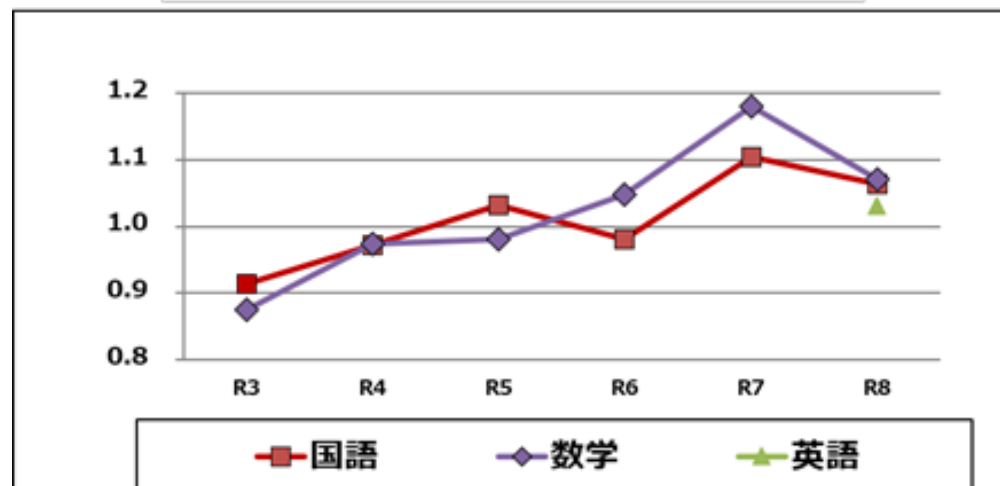
※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を 1 とした経年比較）



令和 8 年度 全国学力・学習状況調査 中学校 <英語> について

本調査でIRTを導入するメリット

1 IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -1

IRT
とは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
項目反応理論(Item Response Theory)。
異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



② 悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

<参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ
本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式		IRT方式	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか		どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1		0.1	
	0.2		0.2	
	0.3		0.3	
	0.4		0.4	
	 5問/7問 (正答率71%) Aさん		 4問/7問 (正答率57%) Bさん	
			 0.2 Aさん	
			 0.3 Bさん	

※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

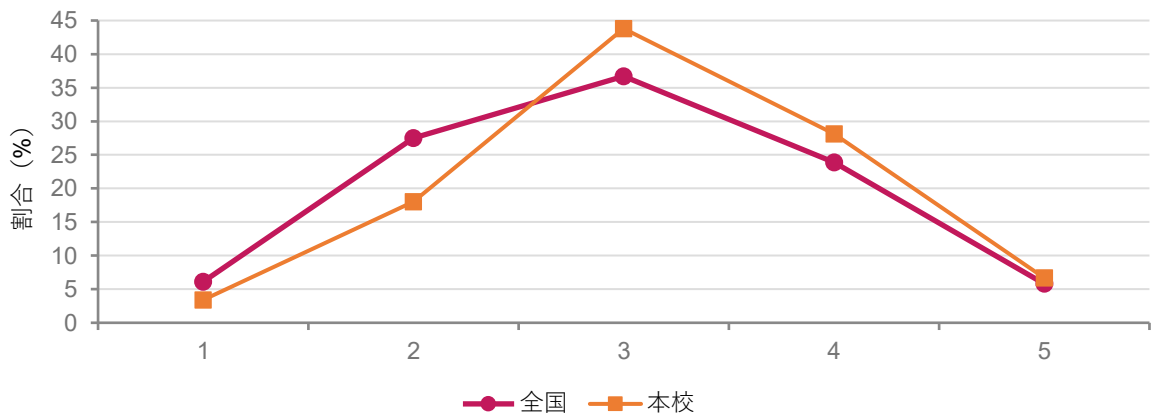
学力調査英語 4 技能（書くこと・読むこと・聞くこと・話すこと）の結果

	平均 IRT スコア（3 技能）
本校	514
全国（公立）	499

<学力調査結果の概要> ○英語について ↓

平均IRTスコアは、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点の平均となり、15ポイント上回る結果となりました。また、IRTバンドは難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されるのですが、バンド3・4に分布する生徒割合が全国より上回っておりますが、バンド5では下回っている状況です。

IRTバンド分布グラフ（全国）



学力調査結果の概要

○国語について

全体的な平均正答率は全国平均より4.1ポイント上回り、大阪府平均も上回る結果となりました。各領域においても、知識・技能の「情報の扱いに関する事項」の項目以外はすべて全国平均を上回り、全体的にバランスよく力をつけてきていると感じられる結果となっています。しかし、正答率の低い設問方に共通してみられる誤解答では、会話文や、書かれている文章の「要点を押さえる」という点があります。現状では聞き取りテストなどの実施につきましては減少している状況ではありますが、メモを取るという習慣や要点を押さえるためには、今後授業の中でも実施していく必要性があると考えます。

○数学について

全体的な平均正答率は全国平均より0.8ポイント上回り、大阪府平均も上回る結果となりました。また、無解答率においても低い傾向がみられます。各領域においては、【証明問題】では一般的に書き始めに課題が見られやすいが、正答率が高く、無解答率も低いことから、生徒が問題へ意欲的に取り組んでいるということがうかがえます。また【データの活用】においても、すべての設問で平均を上回っており、情報の整理や分析に関する能力が高いと捉えられます。これらは生徒が日ごろの授業において、何事にもあきらめずに根気強く取り組んでいる成果といえます。一方で計算問題をはじめとする基本的な問題の定着度は平均を下回っており、今後は全体的な基礎力の底上げを図ることが課題と捉えています。

○英語について

全体的な平均IRTスコアは、全国平均より15ポイント上回る結果となり、大阪府平均IRTスコアも上回る結果となりました。日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を「聞くこと・読むこと」で捉えたり、また語彙、表現、文法などの知識を活用して書く問題では正答率を全国平均より10ポイント上回る結果となり、基本的な知識を活用する力が高いと捉えられます。このことは、生徒が基本問題を繰り返し練習する粘り強さや自分の課題を調整する取組の成果といえます。一方で、他者の意見を読み取り、自分の意見を理由とともに答える問題に課題がみられ、無解答率も高い結果でした。他者の意見の意図を読み取る力、及び根拠をもって理由を説明する思考力に課題があると捉えています。今後は、即興でやり取りする時に、自分の意見に理由や説明を補足する機会をつくり、実践できるよう指導していきます。

国語において成果があった設問

【成果が見られた設問】

1 竹内さんは、西先生に「ら抜き言葉」について質問をしています。次の「二人の会話」を読んで、あとの問いに答えなさい。

二人の会話

西先生「ら抜き言葉」とは何ですか。
「投げる」と言ったときに、「それは「ら抜き言葉」だね」と言われました。」

竹内さん

西先生「ら抜き言葉」とは、「できる」という可能の意味を含む「出られる」を、「出れる」のようにする言い方のことです。「投げる」も「投げられる」の「ら抜き言葉」に当たります。」

一 竹内さんは、「二人の会話」の……線部①「可能の意味」について考えています。次の1から4までのうち、文中の……線部が「可能の意味」を含んでいるものを一つ選びなさい。

1 運動会当日の天気が案じられる。
2 突然、友人から声を掛けられる。
3 満腹になったが、ケーキは食べきれられる。
4 来賓の方々が、卒業式の会場に入られる。

二 竹内さんは、「二人の会話」の……線部②「投げられる」について考えています。次の1から4までのうち、「投げられる」を説明したものとして最も適切なものを一つ選びなさい。

1 「投げられる」という動詞である。
2 「投げる」という動詞と「られる」という動詞でできている。
3 「投げる」という動詞と「られる」という動詞でできている。
4 「投げる」という動詞と「られる」という助動詞でできている。

考察

助動詞の意味についての理解に関する問いにおいて、2年時に授業内で小テストを取り入れたり、身近な例文として提示したり、また生徒自身が考えることが正答率の高さに繋がったと考えられます。また、今年度も復習問題として定期テストなどで反復して活用している点も、知識の定着に関係していると捉えています。

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、「具体的な場面」を思い浮かべながら、「二種類の例文を書いてみました。あなたは、(例文1)と(例文2)を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがつて書きなさい。」

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり書き加えたりしてもかまいません。

(具体的な場面)

条件1 (例文2)の擬態語「きつぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

(例文1)「擬態語を使っていない例文」

先生「いいえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

(例文2)「擬態語を使った例文」

先生「いいえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきつぱりと言った。

考察

文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを表現する問いであります。正答率自体は高くはないですが、無解答率が大阪府・全国よりも低く、挑戦しようという姿勢は見られます。これは日々の授業や定期テストで自身の考えを書く問いを毎回のよう設定し、生徒も諦めずに取り組んできた成果であると思われます。しかし、正答率が高くないという点から「条件に従って書く」ことや「本文の内容から根拠を示して書く」ということに課題があるので、「要点を押さえる」ことや「本文を基に根拠を提示させる」という練習をさせる必要があると考えます。

数学において成果があった設問

【成果が見られた設問】

反比例

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。□ に当てはまる数を求めなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	...
y	...	□	-6	-12		12	6	...

考察

反比例の基本性質である「 x と y の積が常に一定」という関係を直感的に活用できた生徒が多かったと思われます。表における数値の変化の規則性や正負の対応関係から正解を導き出すことが可能であり、複数の解法アプローチが存在したことが正答率の押し上げにつながったと考えられます。

データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（睡眠時間）

9 保健委員の横山さんと惣矢さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の傾向について、保健だよりで報告することになりました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と睡眠時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

起床(時分)	人数(人)	睡眠時刻
6:00	18	
6:15	5	1
6:30	14	
6:45	75	2
7:00	126	
7:15	62	
7:30	20	
7:45	2	
合計	300	

全校生徒の睡眠時間の数値分布表の□には最小の値から5等分した7等分点の睡眠までの睡眠人数を求め、□に当てはまる数を求めなさい。

(2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるかを探り出した。そこで、次のような表と図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることになりました。

学年	起床時刻	睡眠時刻	睡眠時間
1年生	6:00	7:00	1:00
2年生	6:15	7:15	1:00
3年生	6:30	7:30	1:00

学年別の睡眠時間の傾向を調べ、次のことがわかります。

1年生は、□が1:00より長い睡眠時間であることがわかる。
2年生と3年生は、□が1:00より短い睡眠時間であることがわかる。
よって、睡眠時間が年間を通じた傾向は、1年生より2年生と3年生の方が長いです。

上の□、□のそれぞれに当てはまる数値を、下のグラフからそれぞれの学年の睡眠時間の傾向を調べ、下のグラフに記入してください。

ア 1年生 イ 2年生 ウ 3年生

エ 1:00分点 オ 2:00分点

(3) 二人は、睡眠時間の傾向をさらに詳しく調べるために、全校生徒の傾向を調べ、次のような表と図に表して、学年別の睡眠時間の傾向を調べることになりました。

学年	起床時刻	睡眠時刻	睡眠時間
1年生	6:00	7:00	1:00
2年生	6:15	7:15	1:00
3年生	6:30	7:30	1:00

学年別の睡眠時間の傾向を調べ、次のことがわかります。

1年生は、□が1:00より長い睡眠時間であることがわかる。
2年生と3年生は、□が1:00より短い睡眠時間であることがわかる。
よって、睡眠時間が年間を通じた傾向は、1年生より2年生と3年生の方が長いです。

上の□、□のそれぞれに当てはまる数値を、下のグラフからそれぞれの学年の睡眠時間の傾向を調べ、下のグラフに記入してください。

ア 1年生 イ 2年生 ウ 3年生

エ 1:00分点 オ 2:00分点

考察

1.2年生の授業では、教科書の学習内容に加えて、登校時間など実生活に関わるデータのアンケートを実施し、生徒が興味を持った項目についての整理・分析を行いました。身近な題材を扱うことで学習意欲が高まり、理解を一層深めることができたと考えられます。生徒の傾向として、型にはまった一律の学習よりも、実生活と関連付けて考えたり、自分らしい表現を取り入れたりする学習において、より強みを発揮できることがうかがえます。

英語において成果があった設問（書くこと・読むこと・聞くこと）

【成果が見られた設問】

5

<問題文>

あなたは、「住みやすいまちづくり」についての意見交流会で、友達のたけるの話を聞くところです。話を聞いて、たけるが最も伝えたいことを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。

◀ 再生ボタンを押してください

【たけるのスピーチ】



<解答欄>

- ☐ 1 Many people from different countries are living in our city.
- ☐ 2 We need to help people from abroad with many different languages.
- ☐ 3 Our city improved the website for people from abroad.
- ☐ 4 People from abroad can get useful information from the website.

8

あなたは、友達ジョン(John)から次の【メッセージ】を受け取りました。【メッセージ】の内容を基に、【4つのウェブサイト】から、ジョンに紹介するウェブサイトとして最も適切なものを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。タブを選択しただけでは、解答したことになりません。

【メッセージ】

John How are you? I have a question. My friend, Bob, and his family are coming to our town next Friday and Saturday. Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.

【4つのウェブサイト】（下の番号を選ぶとタブを切り替えられます）



<解答欄>

- ☐ 1 Hot Spring
- ☐ 2 Nature Park
- ☐ 3 Art Museum
- ☐ 4 Temple

考察

本校で使用している教科書で扱うリスニング問題は、聞き取る必要のある情報についてメモを取る練習ができる内容なので、テーマに対してどんな情報を聞き取るべきかを考えてからリスニングを指導してきました。英語の質問を聞いて答える、また英語の選択肢がある問題など様々な種類の問題を解くために、デジタル教科書を使って、何度も聞いたり、スクリプトを見て聞いたりするなど自分が大まかな内容を理解するために個々に合った練習をしてきた成果が表れたと考えられます。

考察

本校で使用している教科書では読む力をつけるために長文の内容を要約したり、表にまとめたりして大まかな内容を捉えることを目的としたリーディング教材が多くみられます。一文一文読むのではなく必要なキーワードや情報を読み取る力がつくように指導した成果が表れたと捉えています。また長文のテーマによって、読み取るべき表現を理解している生徒が多いことが正答率の高さに繋がったと考えられます。

質問紙調査の結果

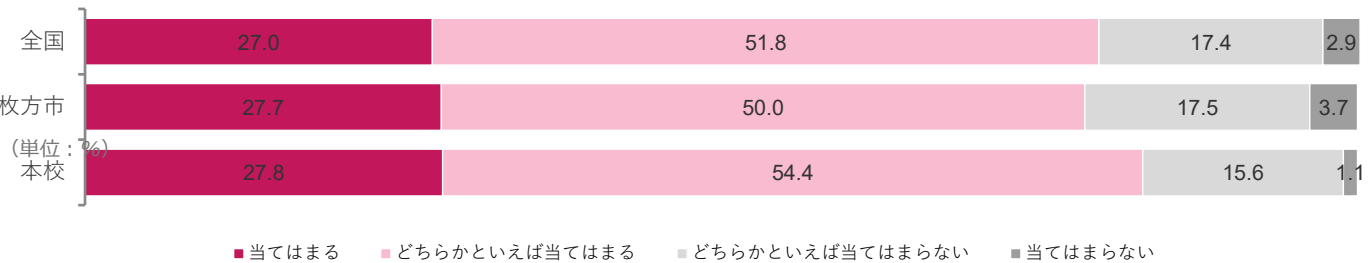
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

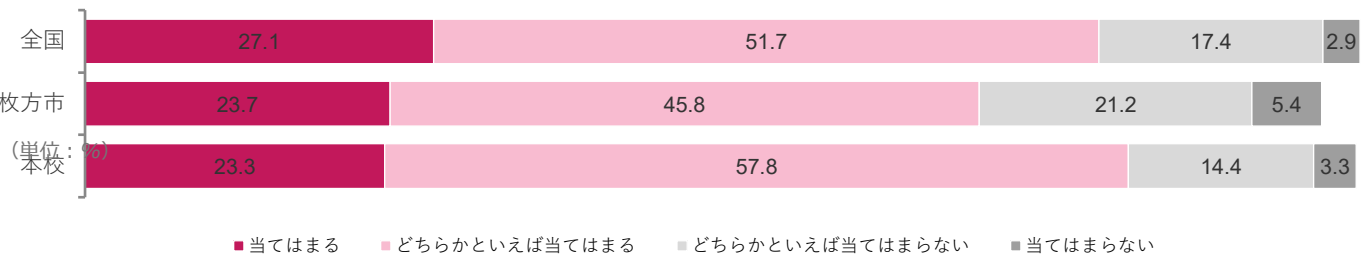
質問内容：1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



（考察）

肯定的な回答が本校82.2%、全国78.8%、枚方市77.7%であり、強い肯定および弱い肯定それぞれが全国、枚方市を上回っていることが特徴である。このことから全国および枚方市より主体的行動の自己評価が高いことが読み取れます。
日頃の授業において、「自己成長力」の向上に向けて自立した学習者の育成に向けた取組を続けてきた結果であると考えられます。

質問内容：1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



（考察）

肯定的な回答が本校81.1%、全国78.8%、枚方市69.5%であり、肯定的な回答の合計が全国、枚方市を上回っていることが特徴であります。
言語能力および情報活用能力は学習基盤とされており、本校の授業の取組として、一人一台端末を活用しながら探究的に学ぶ教科が複数あります。その他の教科でも根拠に基づく説明やまとめの活動を多く取り入れています。次年度以降も引き続き、これらの活動を多く取り入れることで生徒の資質・能力の育成に努めます。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

（１）授業改善について

本校では「子どもたちの主体性を大切にしたい未来につながる学びの実現」を目標に、「自己成長力の向上～生徒に委ねるの授業の深化～」を研究主題に授業改善に取り組んでおります。授業は単なる知識をつける場ではなく、生徒が生涯にわたって自らの資質能力を伸ばしていけるように取り組む場であるにとらえています。

このことから、生徒の「自己成長力」の向上に向けて以下のようなことを重点的に取り組んでいきます。

①生徒一人ひとりの目標設定と振り返りの充実

授業では「自分でめあてを立てて、学び方を選択し、成果を表現する」流れを大切にいきます。具体的には単元のはじめに学習の到達目標や評価の観点を示し、学習の方法を選択できる場面を増やしていきます。また、日々の学習活動の後に生徒が自分の学習を振り返り、次の課題の課題設定につなげる習慣をつけていきます。

②一人一台端末の活用の質的向上

本校で日常的に使われている一人一台端末を「ただ使う」段階から「学びの質を高める」ために活用する段階へ移行させていきます。教職員がICTの強みを理解し、授業に取り入れることで生徒の思考と表現の質を高めていきます。また、今年度から利用可能となった生成AIに関しても教育利用を進め、生徒の資質能力の向上に寄与する使い方を指導していきます。

③総合的な学習の時間と9教科のつながり

総合的な学習の時間と9教科を「人間・社会」「自然・環境」「未来・進路」などの各領域でつなぎ、実生活との関わりの中で学びを深めていきます。さまざまな教科で探究的な学びを意識した授業デザインを取り入れ、総合的な学習の時間との往還の中で、生徒の資質能力の向上に努めていきます。

（２）家庭学習について

家庭学習は授業と切り離された「宿題」ではなく、授業と行き来する学びとして位置づけます。授業の前に資料を確認したり、動画を視聴することで学習の見通しを持つ活動や、授業で学んだことを家庭で自分なりの表現を仕上げる活動を取り入れたりします。（必要に応じて従来通り、ワークやプリント等の課題を出す場合もあります。）

一律に課す課題に関しても、生徒が自己決定しながら課題を進めたり、予定を調整しながら進めすことができるように工夫した課題を課していきます。このことで生徒の自己調整を促し、自立した学習者の育成につなげていきたいと考えています。

保護者のみなさまにおかれましては、本校の授業改善や家庭学習の方向性にご理解いただき、今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。